

講義名	消費者問題論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	森脇 丈子		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限		
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 / 2018年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2018年度 経済学部 経済情報学科 / 2018年度 経済学部 経済学科 / 2018年度 商学部 マーケティング学科 / 2018年度 商学部 経営学科 / 2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		講義コード	14032

主題と概要

私たちはさまざまな商品やサービスに囲まれて生活しています。健康志向の高まりや高齢化に対応した商品やサービス、子どもたちが興味を持ちそうなカラフルで刺激的な商品などたくさんあります。それらの商品のなかには、輸入品も多数含まれています。個人がインターネットを経由して、直接海外から商品を取り寄せ購入することも可能となり、消費者にとっては便利さが増えています。しかしながら、国内の生産者やメーカーとの取引の範囲を超えて消費者がトラブルに巻き込まれるといった状況も拡大してきています。また、悪徳商法による被害は残念ながら減少していません。

この講義では、商品・サービスの売り方(企業側の視点)ならびに消費者の購買行動・引っかかりやすさについて、事例等を使いながら学んでいきます。また、消費者に関連する法律にも触れながら、より安全な消費生活を実践するために何が必要か、どういった行動を身に付けるべきかについて考えていきます。

また、毎回の講義の中で、受講生との議論をおこないます。

到達目標

1. 売れ行きよい商品の秘密を知り、それが消費者にどのように受け入れられているかを学びます。
2. 消費者がつい陥ってしまう「買いたくなる」「断れない」状況について学びます。
3. 悪質商法の実例や対処方法などについての知識を増やします。
4. 消費者保護に関連する法律の特徴について学びます。
5. 消費者の立場から消費や生活のあり方の改善点について、自分で考えるという習慣を身に付けることで避けることのできる消費行動の失敗について、学んでいきます。

提出課題

なし。

なお、授業中に宿題をしばしば出します。次週の授業までに準備しておいてください。

評価の基準

授業での発言(30%)、定期試験(70%)による総合評価をおこないます。

なお、履修者数によって、評価の基準ならびに授業計画の一部を修正する場合があります。

履修にあたっての注意・助言他

授業のなかで、受講者に質問を出して発言を求めますので、新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。

第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。

授業中の私語ならびにスマホ等の利用、教室の勝手な出入りを禁止します。

関連科目として、次の講義の受講を勧めます。
「消費文化論」、「生活構造論」、「経済学入門」、「アミューズメント事業論」、「NPO論」

教科書

・「使用しない」。

プリント資料及び参考文献

授業の出席者には、プリント、新聞記事を適宜配布します。

- ・安部司(2014)『食品の裏側2 実態編』、東洋経済新報社、1,400円+税。
- ・川上徹也(2015)『1行バカ売れ』、KADOKAWA、800円+税。
- ・岩村暢子(2013)『日本人には二種類いる 1960年の断層』、新潮社、720円+税。
- ・鈴木大介(2015)『老人喰い 高齢者を狙う詐欺の正体』、筑摩書房、800円+税。
- ・その他の参考文献は、授業中に適宜紹介します。

授業計画

1. 市場に出回る商品・サービス(1) - 売れない時代の企業の工夫
2. 市場に出回る商品・サービス(2) - 購入をいかに促すか
3. 市場に出回る商品・サービス(3) - 消費者へのインパクト
4. 市場に出回る商品・サービス(4) - 欲望の刺激
5. 悪徳商法の事例と対策(1) - 高齢者を狙った詐欺
6. 悪徳商法の事例と対策(2) - 若者や主婦を狙った詐欺
7. 食の安全性(1) - 食品偽装のあれこれ
8. 食の安全性(2) - 食品偽装はなぜ起こるか
9. 商品事故 - 一般商品、子供向け商品
10. 消費生活相談の概況と課題
11. 消費者運動の歴史と課題
12. 消費者問題と現代の企業システム
13. 「ニセ科学」について考える
14. グローバル化社会における消費者問題 - 課題と対策
15. まとめと定期試験に関する連絡

予習・復習

毎回の講義終了時に、次回の範囲とそれに関連する予習項目を提示します。

その日の授業で扱った内容を基にして、次週の授業開始時に復習問題を提示します。

備考

第1回目の授業ガイダンスに必ず出席してください。

授業中の携帯やスマホの利用、私語など、授業態度の悪い人には退室を求めることがあります。